

KASPERSKY®

年齢とセキュリティ知識は 比例するか？

グローバルレポート

インターネットで55歳以上のユーザーが
直面する脅威の考察

2016年9月

はじめに

「つながった世界」は、中高年層に広範な影響を与えています。この層の人口は年々増加し、その多くが有り余る時間をオンライン世界の可能性、チャンスの探求に費やしています。

この年齢層の人々は、インターネットで、これまでになくコミュニケーションを楽しんでいます。同級生とオンラインで再会する、地球のあちこちに離れて暮らす家族と絶えず連絡を取るなど、この年代の人々が孤独を感じないで済むことにインターネットが役立っていると言えます。

オンラインで過ごす時間は、日々刻々と変化する世界への適応にも必要です。この世界では、銀行、買い物、娯楽、日常のさまざまなサービス、異性との交際やニュースなど、生活に欠かせないさまざまなものへオンラインでアクセスできます。

しかし、中高年ユーザーにとって、オンラインの世界は、とてつもなく不愉快で、危険な環境ともなりえます。

さまざまな要因によって、この年齢層のユーザーは詐欺師たちの格好の標的になっています。まず、55歳以上の人々は、財産は持っていますが、サイバー空間に対する知識はあまり持っていません。また、他の年齢層よりも他人を信じやすい傾向にあります。正しい行動をしたいと思っていますが、目の前にあるサイバー脅威をなかなか識別できません。このような理由で、中高年ユーザーは、オンラインでの嫌がらせや、不適切なコンテンツにさらされることは言うまでもなく、特にデータや金銭の損失にかかわる攻撃を受けやすくなっています

このように攻撃を受けやすいインターネットユーザーには、より強固なオンライン保護が必要です。どのようにすればこういったユーザーを助けられるかをより深く理解するため、Kaseprsky Labでは、グローバルでコンシューマーを対象にしたセキュリティリスク調査を実施し、最新データを分析しました。このレポートでは、世界中の55歳以上を中高年層とし、人々がオンラインで見せる行動を考察し、懸念事項やオンラインで自分自身を保護するためにどのような方策を取っているかなどを明らかにします。

主な調査結果

55歳以上の中高年層は、オンラインの世界に生きている

- 中高年層のユーザーはコミュニケーションを取る目的でインターネットを利用しています。55歳以上の94%が定期的に電子メールで連絡を取っていました。ちなみに、全年齢層での平均は87%です。
- また、日常的な雑事もオンラインで行っています。他の年齢層と比較したところ、この年齢層が最も多く金融取引をオンラインで行っていました。全体として、中高年ユーザーの90%がオンラインショッピングとオンラインバンキングを利用していたのに対し、全年齢層のユーザーの平均は84%でした。

さまざまなデバイスで常にオンラインでいられるようにしているが、それらのデバイスは保護されていない

- 中高年ユーザーは、複数のデバイスの利点を上手に活用して、常にオンラインの世界に接続できるようにしています。55歳以上の4分の1(25%)はタブレットを、3分の1(34%)はスマホを使っています。
- しかし、中高年ユーザーの92%がコンピューターにアンチウイルス製品やセキュリティソフトウェアをインストールし対策していましたが、スマートフォンやタブレットに対してはわずか52%のみが対策済みでした。全年齢層で見ると、スマートフォン(53%)やタブレット(57%)にはセキュリティ対策を施し保護するものの、コンピューターはあまり保護しない(88%)傾向が見られます。

オンラインの脅威を懸念していても、自分たちが標的であるとは見ていない

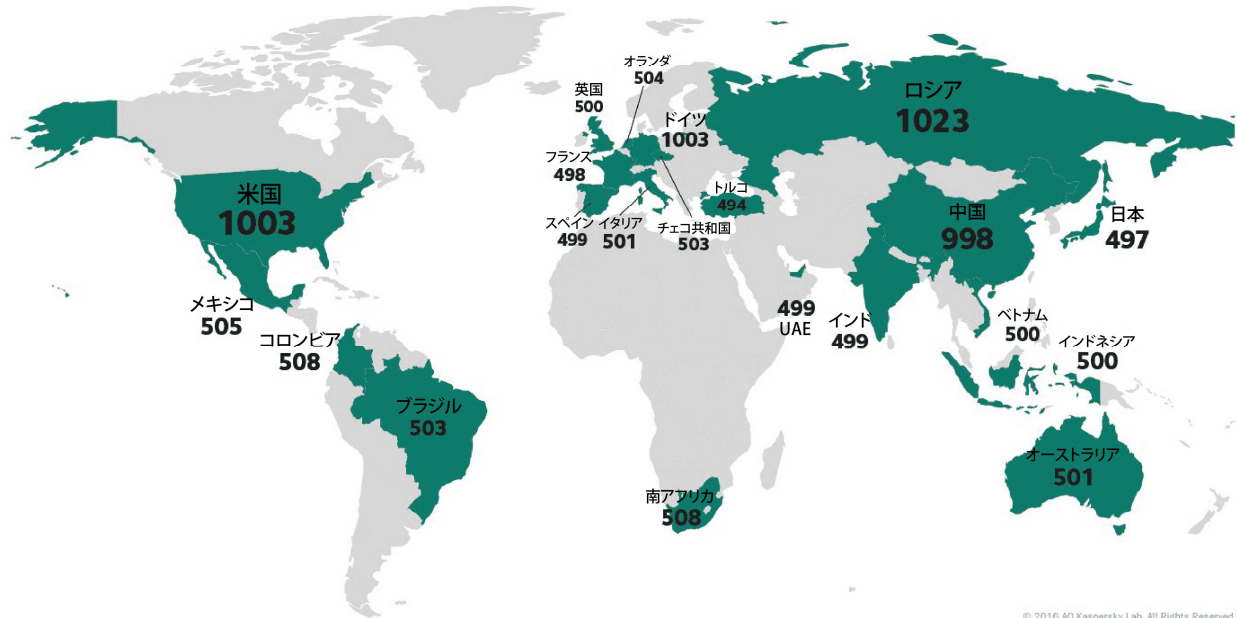
- オンラインで情報を共有する場合、55歳以上のユーザーはセンシティブなデータを誤って共有しないようにするための予防措置をあまりとらず、それ以下の若い層よりも自分自身を危険に晒す傾向にあります。
- 自分のWebカメラやデバイス付属のカメラを通して、誰かが盗み見している可能性があることに気付いている、またはこれを懸念しているのは55歳以上のユーザーの3分の1しかいませんでした(全体では50%)。また、Webサイトやアプリケーションで位置情報を共有するのは不快であると答えたのはわずか25%でした(全体では39%)。
- それにもかかわらず、自分がサイバー犯罪者の標的に成り得ると思っている人は全体では21%だったのに対して、この年齢層ではわずか14%に過ぎませんでした。

この年齢層はサイバー空間に関する知識が少なく、間違った相手を信頼する傾向があり、サイバー犯罪者にとって魅力的である

- 全体の20%が、過去12か月の間に悪意のあるソフトウェアに遭遇した中高年ユーザーが近親者にいると答えています。
- 全体の14%が、オンラインの当選詐欺や投資詐欺などに騙された中高年ユーザーの近親者がいると答えています。
- 全体の10%が、偽サイトやメールを通じて金融機関にまつわる情報を盗まれ、財産を失った中高年ユーザーの近親者がいると答えています。

調査方法

この調査は、2016年8月、世界21か国の16歳以上12,546人を対象に、調査機関のB2B International社によりオンラインで実施されました。



男女比は1対1です。全調査対象者の13%が55歳以上、そのうち7%が55～64歳、6%が65歳以上です。データは重みづけされています。また、このレポートのデータからは中国での調査結果は除外されています。

オンラインの世界で暮らす

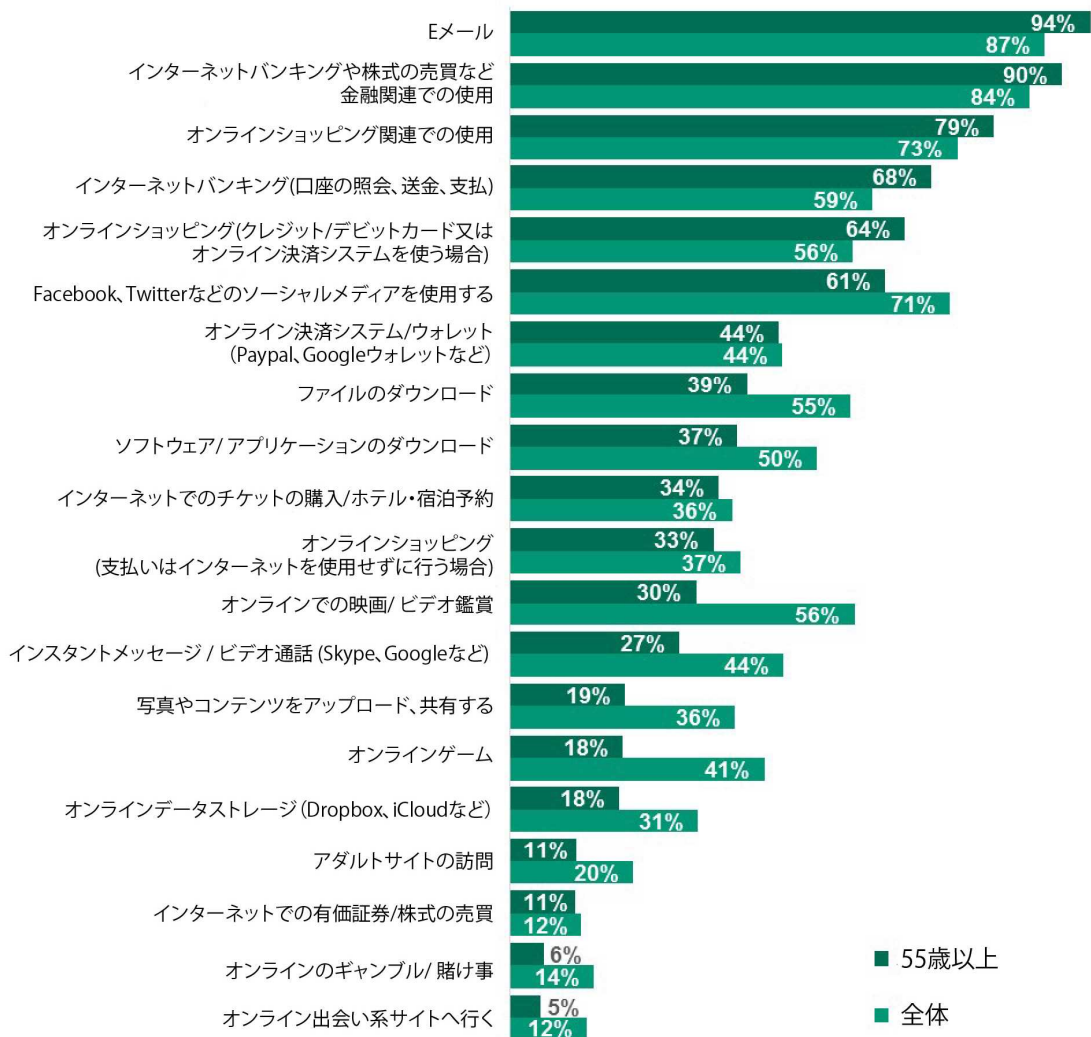
親しい人たちと絶えず連絡を取るため、インターネットに接続する

中高年層の人々は、オンライン生活の長所に気付き始めています。インターネットが提供するさまざまなコミュニケーション形式は、この年齢層の人々と、友人や親しい人々との距離を縮めます。また、孤独感や隔絶感にさいなまれることを防ぎ、どこにいても他の人々とコミュニケーションがとれる助けになります。

他の年齢層よりも中高年層は日常的にコンピューターを使用し、メールをやりとりしています。55歳以上の94%が日常的にメールで連絡を取っていました。ちなみに、全年齢層での平均は87%です。

また、この年齢層は、他のオンライン手段も習慣的に利用し、連絡を絶やさないようにしています。55歳以上の4分の1は、Skype、Googleハングアウトなどのビデオ通話やインスタントメッセージをコミュニケーションに使っています。55～64歳になるとこの割合が35%に上昇します（全年齢層の平均は44%）。また、SNSサイトを使っているユーザーは、全年齢層では71%であるのに対し、55歳以上では61%です。

オンラインでの日常的な行動



必要に迫られ、インターネットライフに順応する

この年齢層は、他の人と連絡を取るためだけにインターネットを使っているわけではありません。生活に欠かせない各種サービスがオンライン対応となった現在、銀行取引や買い物など、インターネットのいたるところで中高年ユーザーの利用が見られます。

たとえば、クレジットカードやデビットカード、またはオンライン決済システムを利用してオンラインショッピングをしているのは、この年齢層が最も多くなっています。オンラインで日常的に買い物をしていると答えているのは、全年齢層の平均は56%ですが、55歳以上では64%です。さらに、55歳以上には、平均よりもオンラインバンキングの利用者が68%と多く、全年齢層の平均59%を上回っています。また、3分の1の34%がインターネットを使って、日常的にオンラインでチケットの購入やホテルの予約をしています。

この年齢層は、インターネットを使った作業や連絡はしていますが、オンラインに娯楽を求める傾向は他の年齢層よりも低くなっています。オンラインゲームをプレイするのは、全体では41%に対し、55歳以上では18%、ギャンブルは全体では14%に対し、6%です。

複数のデバイスを保護せずに使っている

常にオンラインでいられるように、さまざまなデバイスを使用する

若い年齢層では、インターネットへのアクセスにスマートフォンを使用する人が増加していますが(74%)、55歳以上では、一般的にWindows PC(91%。16~24歳では80%)など、従来のテクノロジーに固執する傾向が見られます。

しかし、コンピューターしか使わないわけではありません。彼らもまた、オンラインの世界に接続し続けるために、複数のデバイスを活用しています。55歳以上の4分の1(25%)がタブレットを使用していますが、これは全体平均と同じ割合です。さらに、3分の1(34%)はスマートフォンを使用しています。興味深いことに、この年齢層では、AndroidモバイルがiOSの2倍の人気を得ています。

ウェアラブルデバイス市場は、まだ55歳以上の共感を得ていません。フィットネストラッカー(身体活動計)を持っていると答えたのはわずか5%、スマートウォッチに至っては3%に過ぎませんでした。この年齢層全体の87%が、まだウェアラブルテクノロジーを所有していません。これに対し、調査対象となったすべての年齢層では70%です。

デバイスに対する思い込みが、この年齢層を危険に陥れる可能性がある

中高年ユーザーは、デスクトップPCなど、インターネット接続に使用する一部のデバイスの保護には熱心です。しかし、インターネットに接続できるデバイスをすべて効果的に保護しているわけではありません。これはサイバー空間に関する知識不足が原因と考えられます。

55歳以上は他の年齢層と同様に、インターネットへのアクセスに日常的に使用しているWindows PCをアンチウイルス製品やセキュリティソフトウェアできちんと保護しています(93%。全年齢層では90%)。しかし、Appleのコンピューターにはこのような保護は不要であると誤解しています。Appleのデバイスにアンチウイルス製品やセキュリティソフトウェアをインストールしているのは、全体では64%であるのに対し、中高年ユーザーでは半数(52%)です。

インターネットの安全性に対する気のゆるみは、スマートフォンの保護にも見られます。スマートフォンやタブレットにアンチウイルス製品やセキュリティソフトウェアをインストールしているのは52%でした。これに対し、全体の57%がタブレットを、53%がスマートフォンをセキュリティソフトウェアで保護しています。

さらに強固な保護となると、サイバー空間に関する知識の少なさが目立つ

インターネットに接続可能なデバイスへのアクセスの制限にパスワードやPINを使っているユーザーは、55歳以上の場合は75%です。これに対し、全年齢層では、77%が使用しているデバイスの少なくとも1つに対して、パスワードやPINを設定しています。全体の46%と比べて、中高年ユーザーは、セキュリティソフトウェアとパスワードの両方でデバイスを保護している人が51%でした。一方で、デバイスに一切パスワードを設定しない人も21%と多くいます(全体では14%)。

中高年層が若い層ほどの予防措置を講じずにインターネットへアクセスしているのであれば、このような注意の欠如は憂慮すべきことと考えられます。

調査の結果、プライバシーや個人情報を保護するために、SNSサイトやブラウザーに高いプライバシー設定をしていたのは55歳以上の30%だけであることがわかりました。モバイルデバイスで使用しているアプリの位置追跡機能をオフにしている人はさらに少なく、18%でした。これとは逆に、ほぼ4分の1(23%)が、GoogleやFacebookなどの有名Webサイトは個人情報を集めているから使用を避けていると答えています。16~24歳で同じように避けていると回答したのはこの半分です。

また、中高年ユーザーにはデバイスに付属しているセキュリティ機能(例:リモートブロック、“デバイスを見つける”)やVPNを使わない傾向が見られます。全年齢層の平均ではそれぞれ42%と16%でしたが、中高年ユーザーでは28%と10%に減少しました。

気にはしているが、適切な行動ができない

オンラインの脅威は心配だが、自分自身を標的とは思っていない

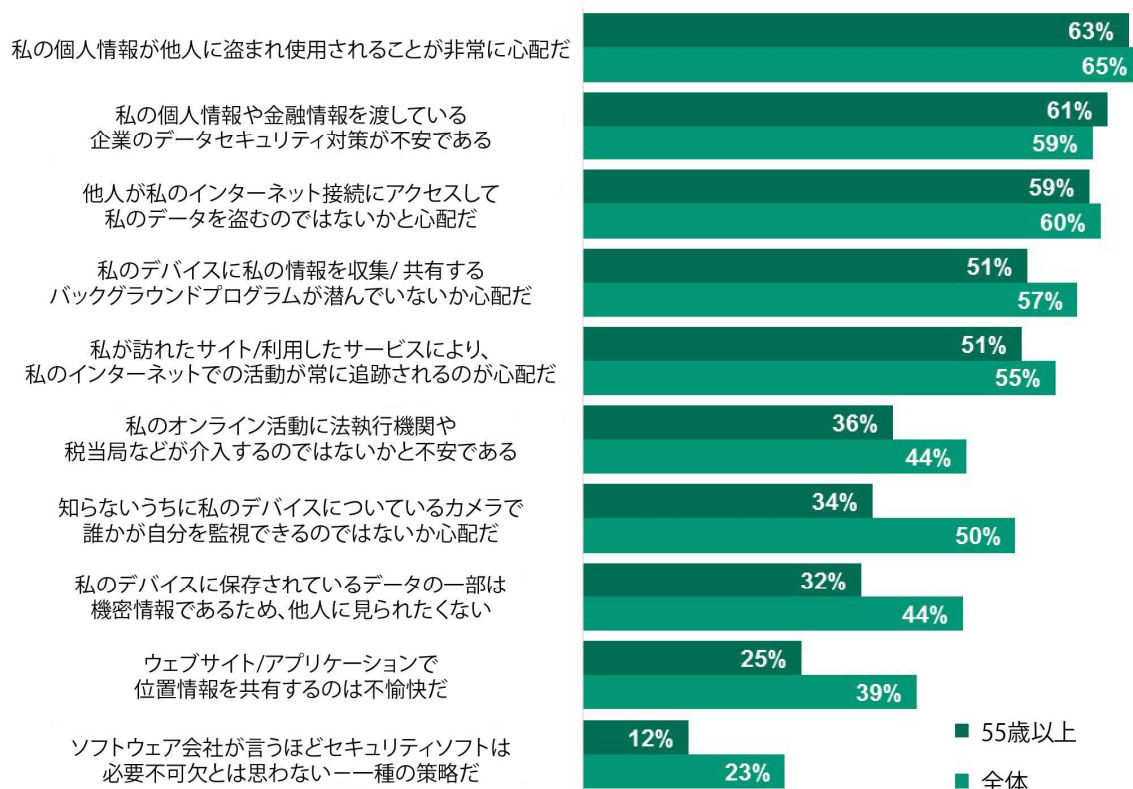
中高年ユーザーは、オンラインの世界の危険性を心配していますが、迫る危険や、サイバー空間で賢く行動し、リスクから身を守る方法についての知識が限定されています。

自分のWebカメラやデバイスのカメラで、誰かがこっそりと自分を見ている可能性があることに気付いている、またはこれを懸念しているのは55歳以上のユーザーの3分の1しかいませんでした(全体では50%)。また、デバイスのバックグラウンドでプログラムやマルウェアが自分に関する情報を収集または共有している可能性を憂慮していると答えたのは51%でした(全体では57%)。また、中高年ユーザーはものごとを信頼しようとする傾向が強いとみられ、Webサイトやアプリケーションでの位置情報の共有が不快であると答えたのはわずか25%でした(全体では39%)。

オンラインで金融取引をする割合は、中高年層の方が高いことを考慮すると、オンラインでの商品購入時に脆弱性を心配する人が全年齢層の場合の53%と比べて、中高年層では49%であることは気がかりです。一方、中高年層は、オンライン決済やオンラインバンキング利用時に、セキュリティソリューションをあまり信用していません。もし、金融取引で信頼できる保護があれば、オンライン決済をもっと使うと答えたのは、全年齢層の場合50%であったのに対し、この年齢層では40%でした。

同時に、55歳以上のユーザーは、オンラインでアカウントをハッキングされること(71%)、データを収集しに侵入してきた悪意のあるソフトウェアにデバイスのパスワードを傍受されること(70%)、顧客アカウントを標的にした金融機関へのサイバー脅威に攻撃されて、財産を失うこと(68%)などを懸念しています。それにもかかわらず、自分がサイバー犯罪者の標的になりうると考えている人は全体で21%だったのに対して、この年齢層ではわずか14%でした。この年齢層はオンライン上の危険を心配しているにもかかわらず、実際にはあまり用心していないことが懸念されます。

中高年齢者の懸念事項はオンライン上のセキュリティ



オンラインで情報を共有、コミュニケーションをとる

理解不足か、または無関心からかは不明ですが、オンラインでの情報共有に対して、55歳以上のユーザーは、若い年齢層と比べ、あまり予防措置を取らない傾向があります。メールの送信前にメッセージを再確認するのは35%、高いプライバシー設定をしているのは28%、疲れているときには情報を送信しないと決めているのはわずか16%でした。しかし、30%が情報の共有または送信後にインターネットの履歴を削除し(若い年齢層は27%)、36%が個人データがリスクに晒される可能性がある場合はSNSやメッセージングプログラムにログインしない(同29%)傾向も見られます。

55歳以上の6割は、基本的な個人情報を友人(60%)や家族(61%)と共有していますが、同僚と情報を共有しているのは10%にとどまりました。悩ましいことに、このような情報を誰にでもアクセスできる場所で共有した経験のある人が27%に上りました。16~24歳の17%に比べて、高い割合です。さらに、40%が、このような場所で財産に関する情報を共有し、自分を危機に陥れたことがあるという驚くべき事実も判明しました。

オンラインでサイバー脅威に直面する

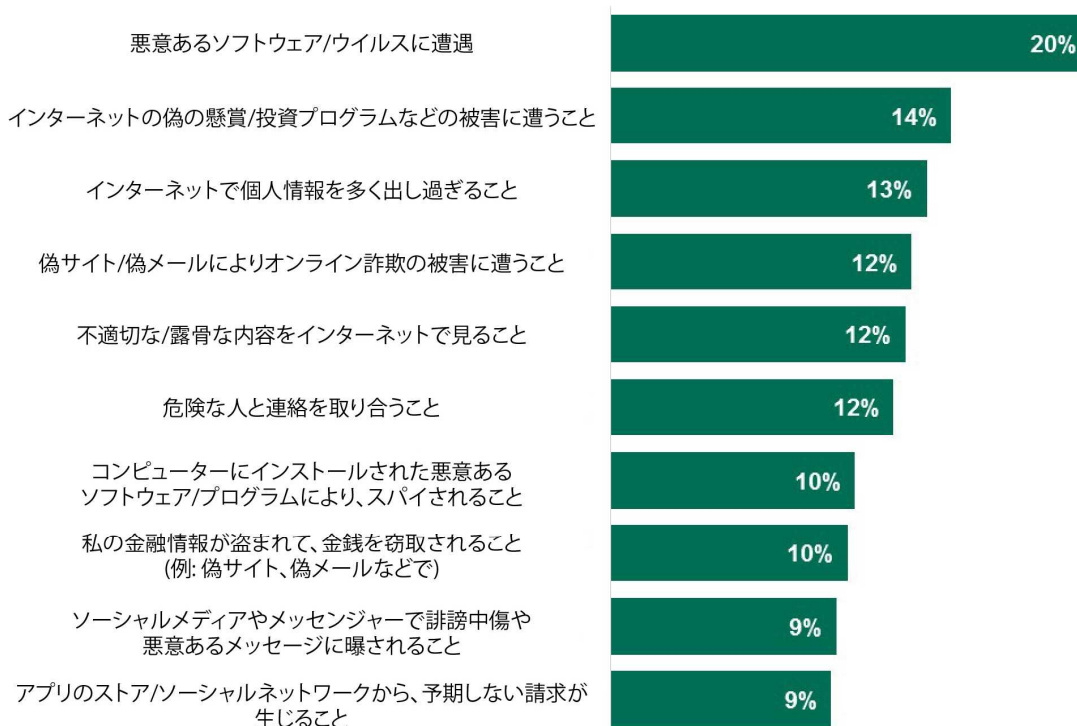
家族は55歳以上の身内が、オンライン上で安全であるかどうかを心配している

家族は、身内にいる中高年ユーザーのセキュリティ対策が不十分であることを知っていて、心配しています。半数以上(51%)が父母の、3分の2(64%)が祖父母のオンライン上のセキュリティを懸念しています。特に、47%は悪意あるソフトウェアやウイルスに遭遇することを心配し、45%は偽サイトやメールのからむオンライン詐欺の標的になるかもしれないと恐れ、37%は財産に関する情報を盗まれた結果、貯蓄を失うのではないかと危惧し、34%は当選詐欺や投資詐欺にひっかかるのではないかと懸念しています。

根拠のない信頼は中高年ユーザーをトラブルに陥れる

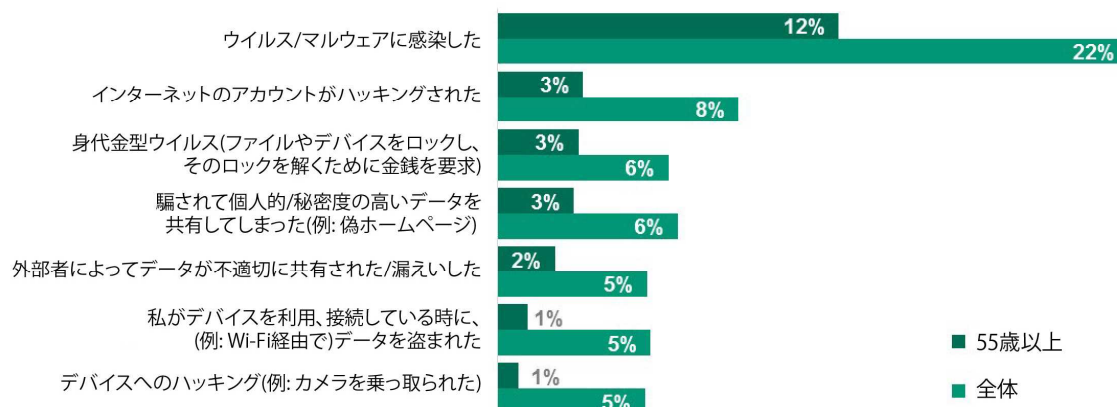
この見出しこそ、中高年ユーザーに対する懸念事項の筆頭です。中高年層が他人を信じやすいという事実は、オンラインの世界を探索している彼らをサイバー犯罪者の恰好の標的にしています。全年齢層の14%が、中高年層の近親者がオンラインの当選詐欺や投資詐欺にひっかかったと答え、また、12%が偽サイトやメールが絡んだオンライン詐欺の標的になったと答えています。

若年層が懸念する、中高年齢者のセキュリティ脅威



自分自身のことを聞かれたとき、中高年ユーザーの17%が、サイバーの脅威(マルウェア、オンラインアカウントのハッキングなど)の標的になったことを認めています(全体では30%)。55歳以上の32%が、マルウェアに感染しそうになったと答え、12%がマルウェア攻撃を受けたことを認めています。ただ、インターネットユーザーの20%が、悪意のあるソフトウェアやウイルスに遭遇した中高年層の近親者がいると答えていることから、中高年ユーザーは自らを危険に晒したことを十分に認識していないことがうかがえます。

中高年齢者が被害に遭うセキュリティ脅威



まとめ

55歳以上の中高年層は本質的に用心深いとだろうという認識は誤りと思われます。キーボードの前に座しているとき、多くの場合、常識はどこかに飛んでいってしまっています。Kaspersky Labの調査結果は、55歳以上のユーザーは、自分たちが頻繁に標的になっているという現実から目をそらしているか、または感染したことに気付いてすらいけない可能性があることを示しています。

かなりの数のユーザーが、自分自身に関する個人情報を友人や家族だけでなく、誰にでもアクセスできる場所で無分別に共有しています。さらに、自分の財産に関するセンシティブな情報が公になることを防ぐために必要な手段を講じていません。弊社の調査から、中高年ユーザーは、送信前にメッセージを再確認するという予防措置をあまりとっていないこと、高いプライバシー設定をしていないこと、若い層よりも多くの情報をばらまいていることも明らかになりました。

重要なことは、中高年ユーザーはサイバー空間に対する意識が不十分であるがゆえに、オンラインの危険性に対して必要な注意を十分に払えないということです。また、他人を信じやすいという傾向も、この年齢層がトラブルに陥る原因となっています。これらすべての要因が、父母や祖父母は安全にインターネットを使っているのだろうかという若い家族たちの心配につながっています。

サイバー空間に関する詳しい知識を身につけ、インターネットに接続されている世界がもたらす危険性を認識し、必要であれば誰かに助けを求めることが重要です。また、若い家族がそばにいて、最適なセキュリティ習慣を教えることも大切です。さらに、他のどの年齢層よりも、55歳以上のユーザーは、インターネットに接続している所有デバイスすべてに強固な情報セキュリティのエンドポイント保護対策を強く推奨します。

中高年ユーザーは、それが銀行口座に関する情報か、メールの連絡先リストか、孫の写真であるかには関係なく、自分に最も重要であるものを保護し、日々増加するサイバー攻撃やオンライン犯罪活動に対する予防措置を講じることが不可欠です。